

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 2 号

2011 (平成23) 年5月21日 (土)

『三つの心』

| | | | |
|-----|---------|------|------|
| みつ | こころ | | |
| ひとつ | 「はい」 | すなお | こころ |
| | | という | 素直な心 |
| ふた | 「すみません」 | はんせい | こころ |
| | | という | 反省の心 |
| みつ | 「ありがとう」 | かんしゃ | こころ |
| | | という | 感謝の心 |

寺子屋・こども論語塾主宰 新 田 おさむ 修

塾生のみんなは、ゴールデンウィークをどのように過ごしましたか。きっと思い出に残る楽しい大型連休であったことと思います。

春のこの時期は、一年の中で最も気候の良い穏やかで過ごしやすい季節です。家に閉じこもらず、外で大いに遊んでほしいと思います。

さて、最初の言葉は、人が他人から好かれるタイプ(種類)の人間は、三つの心を持っているといわれています。

「はい」「すみません」「ありがとう」をきちんと言えると同時に「こんにちは」「さようなら」など、あいさつがしっかりできる塾生になってほしいと願っています。

～～学而第一篇(第一章～第十六章)を終えるにあたって～～

平成22年12月18日、北大寺の本堂で「寺子屋・こども論語塾」がスタートしました。

開塾セレモニー後の初回参加者の塾生は、4歳の幼稚園児から64歳の大人までの20名。他に保護者24名でした。そして、初回だけではありましたが来賓・招待者が40名で合わせて84名になりました。

いよいよ素読の第一声を発する瞬間がきた時の緊張感は、今も鮮明に覚えています。40年間の教師生活でも経験したことのないものでした。

水を一杯飲み干し、意を決して会場をゆっくり見渡し、テキストに目をやりました。

私が先唱する「学而第一」という発声後に全員が「学而第一」と復唱し、続いて私の「子曰わく」と読んだ後に全員が元気な声で「子曰わく」と続くのです。

その素読の声が本堂に響き渡ったときの感動は生涯忘れることはないでしょう。

論語の素読とは、「意味がわからなくても大きな声を出して読むこと」を言います。私の後に続いて素読することで一体感が生まれ、同時に親子が感動を共有し、より絆を深め、礼儀正しい規律ある積極的な人間としての成長を願っていることは言うまでもありません。また、「ことば」の意味がわからなくても、声を出して読むことで体に染み込ませていけば、年齢と共に成長の過程で必ず活かされることを確信しています。

早いもので本日の「第6回論語教室」で学而第一篇が終了します。近藤住職・塾生・保護者・世話人会・その他多くの人々の支えがあって何とか軌道に乗りつつあることに心より感謝申し上げる次第です。今は坐禅で集中力を養い、論語の素読で漢文独特の音の響きとリズムを楽しんでもらいたいと思っています。